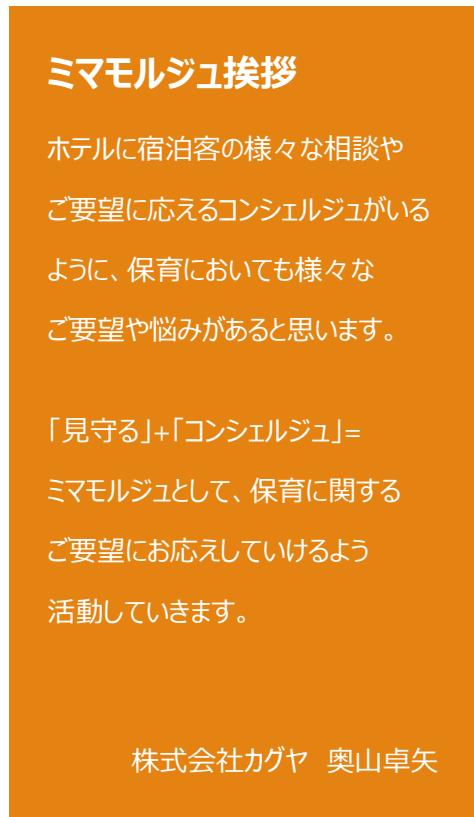


# 2018年度GTセミナー 職域別見守る保育セミナー②

## 2019.1.21～1.22

第102号 2019年2月11日発行



### 職域別見守る保育セミナー

2019年1月21日～22日に職域別見守る保育セミナーが東京都中央区のコンгрレススクエア日本橋にて開催しました。

全国から80名程の先生方が集まり藤森代表の講演や國信設計事務所の国信様をお招きし「世界に見る保育環境」をテーマにご講演して頂きました。

また、職域別見守るセミナーの醍醐味でもある職種ごとのグループディスカッション等、2日間に渡り研修を行いました。

#### 1日目 2019年1月21日(月)

- 10:00～ 園見学
- 13:45～ 基調講演① 藤森代表
- 15:15～ 休憩
- 15:30～ 「世界に見る保育環境」国信 主馬様
- 17:15～ 意見交換会

#### 2日目 2019年1月22日(火)

- 9:00～ グループディスカッション
- 12:00～ 昼食
- 13:00～ グループ発表 (←今回の記事はここ)
- 14:30～ まとめ

グループ討議の時間では、各職種が混ざり、グループごとに3時間話し合いが行われました。

グループごとで話し合った内容を発表して頂き、藤森代表から考え方のコメントをして頂きました。

## Aグループ

園長と看護師グループだったが「待つ」ことについて話をした。「待つ」ということで、噛みつきがあった時にどこで介入をするか。どこで介入すればいいかということで、子どもの発達上、噛みつきがあるので、主体的な行動を止めず、まず見ていきたいね、となった。噛みつきが起きた時に、どこに問題があるかというと、保護者の方から言わることもあり、環境を整えることも意味でも、子どもの発達に合わせて、事前に保護者に伝えていく。「つかまり立ちをして、伝い歩きを始めたら、活動範囲が広がると引っかき・噛みつきが起こるかもしれません。同じ玩具に熱中して、友達の取り合いで起こりうるかもしれない」と事前に伝えることで、保護者も発達の所で起こるのだろうということ、子どもの興味・関心を發揮させていけるような環境が大事という話をしていく必要があると話にあった。続けて、同じ子を噛んでしまう時には、何かあるかもしれないので、子どもの活動を保障しつつ、トラブルが起きそうな時は、すぐに保育者が対応できるようにする。「待つ」ということで、「見守る保育」が保護者に理解されず、放任と思われる時に、「見守る」を伝える意味で、保護者会や保育参観などで、「見守る保育」では、「こう考えて、先回りにして手を出さず、子どもの主体性を見ている。だから、こういう風にすぐに手を出さずにしている」と伝えてから、保育参観でそういうことか、ということを理解を経て、保護者の方が理解してくれた所から怪我が起きたときに、受容的に見てくれた、ということで、保護者の理解が深まったということがあった。怪我は起こしたくないが、伝えられないと信頼関係が築けない。引っかき・噛みつきが起きたときには必ず、職員全員が共有して見られるようにして、どんな時でも、同じような対応が出来るような、共通認識を持てるようにしている。次に、職員間の連携で、看護師は保育士と違って、伝達が難しかったり、足並みを揃えるのが難しいと話になった。保育士の経験年数や、やり方によっても伝達がしづらいことがあった。1日の振り返りの時間を持って、話し合うことで、同じ方向を向いて話することで、意見や役割を理解してもらえたことで、共通認識が出来て「見守る保育」が出来ているということがあった。専門職ということで理解されていないところがある。看護師が何をするのだろうということを保育士からもあり、看護師の考え方をわかりやすいように、職員及び保護者に積極的に発信することで、看護師の役割を明確して、こういうことは看護師に相談をしよう、と役割が出来たことで、意見や発信が理解されて意見として取り入れられて行くことがあった。職員間の連携を、専門性を持つことで、一緒に保育を支えていく仲間という関わりをなっていくという話をしました。

## Bグループ

それぞれ園で取り組んでいることを話した。クッキングや異年齢保育、選択制保育等、色々な事を取り入れていることが多くあった。子どもたちの「○○がしたい！」ということを拾って、皆で実現させるために、どうしたらいいかを話し合って実現させたり、異年齢では345歳で活動をして、大きな子が小さな子のお世話をしたり、うちの園のことになるが、選択制保育を取りいれていて、活動を3つ用意して、写真や絵を張って見せ、事前に子どもたちが何をしたいかをその中から選べるようにして、その日の活動をする。マグネットに写真を張っていて、ホワイトボードを張って、どこに誰がいるかを把握できるようにしている。その次に職員間の連携について話をした。週案を皆で立

てたり、毎朝朝礼をして誰が休みなどノートにまとめ見えるようにしたり、職員会議もあった。職員同士の連携がうまく出来なかったり、伝えているつもりでも伝わっていなかったりという悩みがあった。

## Cグループ

せいがさんの見学での感想や悩みを出し合いながら話を拝げた。食事面でバタバタしてしまうところから見学をして、子どもたちが落ち着いていて、子どもをどう引き付けているのかの話をした。先生たちの声掛けも大きくなかったので見習っていきたい。配置も、役割分担も出来ていて感動したという話もあった。その中で、お箸の使い方で疑問点だが、自分で好きな道具、お箸を使っていくのか。握り方を教えて、スプーンからお箸に移行していくかなどの話をした。保育の中で、実質指導していくまでは難しいかなという話もあったので、何かアドバイスがあれば教えていただけたらと思います。次に環境の大切さを感じた。子どもたちが自分たちで片づけられる環境も見習っていきたいと思った。グループの園での食事場面の動画を見せてもらって5人で共有した。その動画から01歳の成長の姿を感じた。食事場面で1歳の子どもが0歳のお世話をしたり、1歳が0歳にお世話が出来るのだという感動をした。子どもたちの成長をどう共有していくかということで、Lineでデータを共有していることや、写真をたくさん撮って成長展につなげている話もあった。保護者へのインフォメーションだったり、熱体調不良がいたときにお迎えに来られない時に、どうしたら迎えに来てもらえるか、どう伝えると理解してもらえるかなどの話が挙がった。

## Dグループ

最初に「見守る」ということと、自分たちは「見張る」という風になってるのではないかと話になった。子どもたちが怪我をしたらどうしよう、忘れ物していないかなどを見張ってしまうところがあり、せいが園さんでは、思いを受け止めながら、見守る・見届けることを感じた。先生たちの中でも、ベテランと若い先生がいる中で、ベテランの経験の在り方や考え方、若い先生の柔軟な考えを受け入れることが難しいという話もあった。保育に関しては、一つの例として2歳の子がお部屋（階段）から出て行ってしまうことで、「見守る保育」でどう対応していくか、という話になった。その子が集団生活が嫌なのか、クラスの環境が嫌なのか、構ってほしい試し行動なのか、そこをどう伝えていけば良いかを話し合った。先生方に聞いたところ、子どもの思いを受け止めて、先生の思いも伝えることで、その子に伝わるのではないかと話を聞かせてもらった。見届けていく環境もされていて、子ども目線だったり、走り回っていたら、走れるような環境を作っていることも勉強になった。給食のことで、最初は先生たちがやっていたことを子どもたちが配膳をしたり、子ども同士が教え合っているところだったので、どんどん活かしていきたい。記録書類に関しても話しをして、発信の仕方やホワイトボードに日々の様子を書くこともあがった。最後に叱ることで「見守る保育」の中で、子どもが悪いことや危険なことをした時に、せいが園さんでは、先生たちが子どもたちの中に溶け込んでいて、あまり声をあげている姿が見られていなかったので、日々どう保育をしているのかを質問したところ、子どもに話すこともあるって、ダメなことはダメと伝えたり、その子の成長をわかっているのは先生なので、その子に合った対応をしていると教えてもらった。グループディスカッションの中で、大人が何でも教えるのではなく、子どもの好きなこと、興味のあることを引き出せるかなど、色々な観点から子どもたちの体験を学びにつなげていくことが大事だと思った。

## —保護者への説明・理解について—

大まかに考え方をお話しします。まず保護者にどう理解してもらうかという話だが、私の園では、年度末に成長展ということを行っています。私たちの仕事は、子どもたちの発達をどう保障していくかということが、私たちの課題です。保育園・幼稚園など幼児教育、は子どもの認知的なものではなく、発達を遂げさせるということで、保護者にこう発達してきたと、そのために私たちは、様々な保育をして、1年中、色々な行事から伝えていきます。例えば、運動会は子どもたちの運動能力を伝える役割があります。発達表を配って0歳からの運動面の発達を見せ、お楽しみ会は、言語と表現領域の発達を見せる。その他に成長展で5領域を中心に、子どもたちの発達を見せるのが成長展です。特別仕込んで、その日のために訓練するのではなくて、日々の発達を保護者に見せることを一貫している。成長展の中で、テーマを決めて動画を見せていました。子どもたちがこんなことをして、成長しているということで、そこに先生がどう関わっているかを見せていました。例えば、子どもが色々な事をする中で、この前で手を出していたら、この育ちは起きないのでよ。ここで手を出さなかったから、こんなことが起きる、という育ちを保護者に説明しています。その中で、地道に積み上げていますが、それでも心配する親はいます。見守るのは、いいのだろうかと思う親がいる。昨年、私として嬉しいことが起きた。私の園が開園して10年目経つが、第一期生が高校3年生になりました。学童に通っていた子たちは大学生3年生です。第一期生の卒園児の保護者が、見守る保育のその後、どう活かされているかのシンポジウムを開いてくれた。卒園児と卒園児の保護者が集まり、小中高校へ行って、どう活かされたかの話し合いをしてくれた。みんな良いと言ってくれたが、私として有難いのは、うちの保育が良いと、褒められたこと有難いのではなくて、高校生がこんなことをした。こう活かされているというのを、保育のお陰と言ってくれるのが有難い。その子の資質もあるし、家庭環境かもしれないし、小中の経験から身についたんじゃないかと思わないで、保育園の頃が役に立ったと言ってくれるのは有難い。うちの職員が近くの小学校の野球のコーチを引き受け、顔合わせに行ったそうです。そこの監督がうちの職員に、「せいがの卒園児は、他の園の卒園児と全く違う」と言つたらしい。どう違うかを聞いたら、「リトルリーグで、バッターで打って、アウトになったらすぐに守備に行くのはせいがの子で、他の子は言われるまで待っている。やっと何か言ったと思ったら、「どうしたらいいか?」と聞いてくる。それが、せいがの卒園児と全然違うと言われ有難いと思うのは、それを保育のお陰と言ってもらえるのが有難い。その子の資質や家庭の影響もあるのではと思うが、私たちが取り組んでいる保育のお陰、と言ってくれるのは有難い。地道にやっていると、だんだん認知されてくる。いる間に保護者に理屈で説明しても、結果的に子どもがそう育っていないと意味がない。途中は大変で誤解も受けるが、信じて、子どものためにやっていると、だんだん理解して、地域の人も認知してくれると思っているので、私たちは言われたことで揺るがないで、子どものためにやろうとしている。丁寧に説明していくことと実践、いい保育をしていくことで理解されていくと思います。それまで大変だと思うが、保護者も悪気がある訳ではなく、子どものことを思っているので、子どもが変わってくれれば理解してくれると思います。その他にも、伝えていくことは大事です。

## —ひっかき・噛みつきについて—

ひっかき・噛みつきはどこも問題になるが、発表の中であったように、ずいぶん昔、幼稚園の先生たちと危機管理の本を作ろうとしたときに、ひっかき・噛みつきの話になった。そうしたら、幼稚園の園長先生が、「私たちが分担しますと」言った。私が「えっ?」と言ったら、「ひっかき・噛みつきは、発達上3歳から起きるんですよね、」と言われ、私たちからすると、1歳のイメージが強いが、幼稚園の人たちは3歳から噛みつくと言われた。発達によると言ったが、それを聞いた瞬間、発達ではなくて、集団に入りはじめた時のストレスではないかと思った。集団の中は、

我慢をすることも多く、家で思い通りに行っていたことが、集団では我慢することが多くなる。それで、幼稚園だと3歳から入る場合があるから、3歳で噛みつきがはじまり、保育園では1歳位から集団に入るので1歳で起きるのだろうと思った時に、年齢の発達ではなくて、環境が子どもにストレスを与えている可能性があるのではないかと思った。ストレスがかかった時に、どうして噛むのかを調べた。国立科学博物館で行くとびっくりするが、人類の進化の中で、一番の進化は特に栄養士・調理がいるので分かると思うが、歯が内向きになってくる。サルに近い頃は歯は外向きで歯を攻撃で使っていた。次第に食べものの咀嚼に使いはじめた。ここで関係ないかもしれないが、歯は咀嚼に良いように変わってきます。人類が食べるものによって、摂取する割合によって歯が変わってきます。門歯は、肉をかみ切り、犬歯は野菜をかみ切り、臼歯は穀物をすりつぶし、本数で言うと臼歯がダントツが多い。同時に、咀嚼をすることですりつぶすが、これを促すために唾液を出す。唾液を出すためには、噛むことが大事。噛むことで顎を強くし唾液を出す。噛むことの一つは、咀嚼と唾液を出すこと。友達を噛むのは、咀嚼をしようとしているのか。そうではない。唾液を出すためにしているかと言ったら、そうではない。噛む行為は他に何をするかと言ったら、一つは脳を活性化することがある。お年寄りは噛むといいという。唾液で言うと咀嚼を促すだけでなく、菌を殺す役目があり、虫歯菌を殺すのは唾液を出すからと言われ、インフルエンザが流行っているが、唾液を出すことで防ぐと言われ、うちの嘱託委は、インフルエンザが流行っている時は、必ずガムを噛んで診察している。脳を活性化するということで、子どもも噛むと脳が動くと言われている。脳を活性化するために友達を噛むかというと、そうではない。分かったことは、野球選手がガムを噛みながら、バッターボックスに立つが、急激なストレスを噛むことによって、下げる効果がある。昔の漫画で、女性がストレスが溜まると、キーッとハンカチを噛んでいるが、あれ噛んでストレスを下げているのだろう。これは日本ではしないが、ドイツではおしゃぶりをしゃぶらせてている。頭にくると、おしゃぶりをして、マイおしゃぶりがあって、年長の子でおしゃぶりをしながら散歩をしていた。外国は、おしゃぶりをさせているので噛みつきがない。もう1つは、鼻呼吸をさせるためにおしゃぶりをさせている。日本では、歯医者が真っ先に、歯並びが悪くなると言って、おしゃぶり反対した。ストレスを感じた瞬間噛んでしまい、必ずしも発達だけではないのではなくということ。本人は急激にストレスを下げるためで、憎たらしいわけでも、攻撃するわけではないので、保育士さんが「仲良く遊んでいたのに」というのは関係ない。目の前に噛むものがあったら噛む。よく噛む子どもたちだったら、先生の肩でも噛む。口の前に、物がないようにしないといけない。物理的に遠ざけないといけない。ふっと下がると噛まない。間をおいて、追いかけてしない。瞬間で噛むので遠ざけたり、その間に立って遊ぶとかしかない。瞬間的にストレスが上がることを調べて、どの時間帯に、何をしている時に起こるかを調べて、そういう状況を作らない。いっぱい噛む子には表を作って、いつの時間帯か、どういう状況か、誰に対してか、そういう状況を作らないようにしないと、伝染して流行ります。もう1つは、ストレスを掛けないようにということで、私の園では、担当性ではなくて集団でやっています。その方が噛まない。担当して2,3人見ている方が、子どもにとってストレスです。噛むと心配だからと分担してみるが、かえってその方がストレスが溜まり、大人数で好きなことをやっている方が噛まない。うちの園では基本的にひっかき噛みつきが少ないです。新入園児が噛むくらいです。理屈っぽいですが、考えた結果そういうことだろうと思います。

## —2歳児が保育室から出て行ってしまうことについて—

うちの園を見学して分かると思うが、例えば2歳は、階段の境目がなにもしていない。最初のうちは戸を閉めます。出て行ってしまうので戸を閉めるが、今は自由です。自由と言うのは何かというと、自分の意思で行かないことを言います。最初は柵であるとか、言葉で注意するが、次第に自分の意思で行かなくなることです。自由は何をしてもい

いことではなくて、自分の意思で、していいことと、いけないことがわかることが自由です。好きなことをすることが自由ではないです。そういう子どもたちにしようということです。卒園児がお母さんにこう言ったそうです。朝寝坊して、お母さんがキレて「早く起きなさい！」と言ったらしいが、その子が一言、「時間よ、と言えばいいのに、何で、そんなに怒るの」と言っていた。「行っていけないよ」と言えばいいのに、と子どもは思っている。自分の意思で、いけないことをしなくなることが自由にするということです。勝手に出て行っていいわけでもない。その時にもう一つ大事なことは、出て行ってしまうことは、きっと何か理由がある。この理由を考えないで、出ることだけを止めてしまっても、出ることは止まりません。その子が何をしたがっているのか、家で嫌なことがあるかもしれないし、下に用事があるのかもしれないし、子どもの行動は大人に訴えたい意味があります。多くは、大人にとって良くないと言われる行動をとることが多いですが、それはより訴えたいからです。私たちは表面的なことで怒ったり、注意するのではなく、分かろうとしないといけないと思います。子どもの権利条約に書かれている意見の表明権です。自分の意見を言おうとし、必ずしも言葉だけでなく、悪いことや不貞腐れたり、泣いたり、矢逆らうなど、一見大人にとって悪い行動で訴えることもあるが、それをわかってあげる。子どもの要求を聞く事ではなくて、子どもが言いたいことをわかってあげる事です。それは、私たちの心に余裕がないとつい、怒ってしまいます。保護者に対しても、保護者が当然忙しい時もあるし、出掛けに怒ってしまうこともあると思うが、それを受け止めるのが私たちです。現在の研究では、ひどい親だった時に、それよりもいい保育士の方が子どもへの影響が大きいと、結果が出ています。保育者が理解してあげると、その影響が大きいと言われているので、その子を理解してあげようとする事が大事だと思います。

本稿は、2019年1月22日に行われた職域別見守る保育セミナーの研修内容をまとめたものです。

(文責/奥山卓矢)



〒161-0023

東京都新宿区西新宿3-2-11 新宿三井ビルディング2号館10階

Tel:03-5909-7155

毎週月曜日に配信しています。

ミマモルジュメールマガジン発行：株式会社カグヤ 奥山卓矢

ミマモルジュメールマガジン



メールマガジンのご登録は、

QRコードからお願いします。/